

7. 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

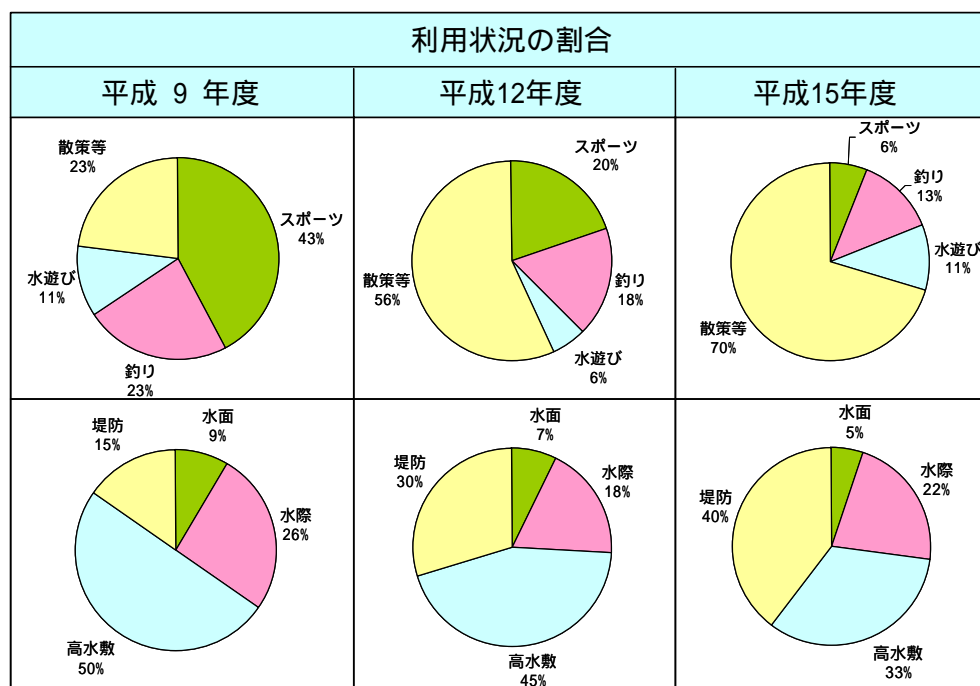
(1) 空間利用状況

那賀川における河川空間利用は、平成15年度の空間利用実態調査によると、下流付近に存在するグラウンド、公園等を中心とした利用が多くなっている。高水敷等の施設の利用区域においては、「散策等」や「スポーツ」での利用、その他上下流の自然的利用区域では「釣り」等の利用を中心に、河川空間が活発に利用されている。

那賀川水系全体の年間利用者数の推計値は約48万人となっており、そのうち、「散策等」が最も多く34万人と全体の7割を占めている。

表7-1 那賀川の年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推定値(千人)		
		平成9年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	133	65	30
	釣り	74	58	63
	水遊び	36	18	51
	散策等	73	186	340
	合計	316	326	484
利用場所別	水面	27	24	26
	水際	83	60	106
	高水敷	158	144	161
	堤防	48	97	192
	合計	316	326	484



出典：河川水辺の国勢調査

図7-1 那賀川の年間河川空間利用状況の割合

那賀川の下流部に形成されている高水敷は、公園緑地、運動場等に利用され、占有面積は現在約15.3haである。これらは、地域住民のスポーツ、レクリエーションの場として利用されているほか、加茂谷鯉まつり（加茂谷町）や万代まつり（羽ノ浦町）が開催されている。さらに、広い水面を利用したボート、カヌーやウィンドサーフィン等の水面利用も行われ、また、アユ等を対象とする釣人も多い。

上流部では、渓流域がアユやアマゴ等を対象とする釣人が多いほか、水遊びや林間キャンプ等の自然指向のレクリエーションの場となっている。また那賀川では、木頭杉一本乗り大会（旧木頭村）やつらら祭り（旧木沢村）、鷺敷ラインではカヌー大会（旧鷺敷町）が開催されている。

このように、那賀川の多様な河川空間は各地域の特性を反映した利用がなされており、その豊かな自然環境と開放的な空間とは、地域住民の憩いとやすらぎの場となっている。今後、地域活性化及び地域住民の生活環境の向上等に資するため、那賀川水系の自然と溪流及びダム湖等が環境資源として注目されており、自然レクリエーションの場として、また、沿川の観光レクリエーション施設と結びつけた広域的観光要素として、その価値は更に高まると予想される。

木頭杉一本乗り



美那川キャンプ場



カヌー大会

(2) 内水面漁業

漁業権

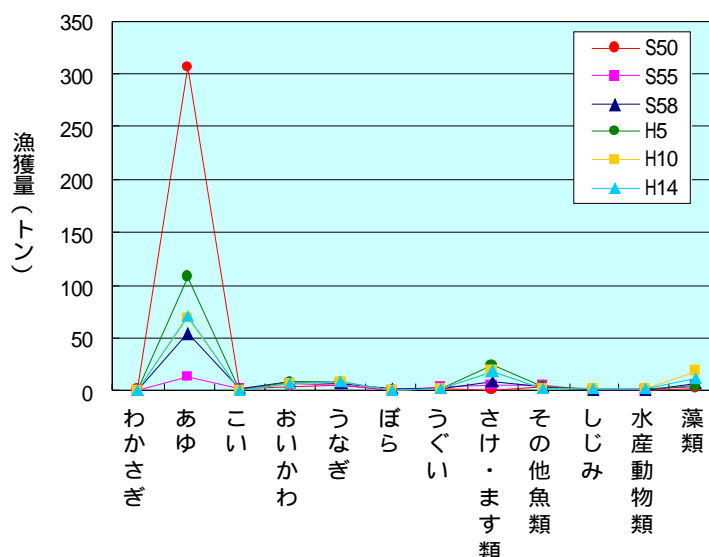
那賀川における漁業権は下記のとおり設定されている。

表7-2 那賀川の漁業権

魚種	漁業権者	漁期設定期間
のり養殖	中島漁業共同組合	9月1日～5月31日
あおのり、あおさ、おごのり、はまぐり、かき	〃	1月1日～12月31日
うなぎ、こい、うぐい、あゆ、ます、あまご	那賀川漁業協同組合連合会	〃

漁獲量

那賀川における漁業、遊漁の対象はアユ、ウナギ、アマゴ等である。特にアユについては、潮止堰上流、加茂谷橋下流で産卵場が確認されており、川口ダム下流域においては天然アユの遡上もみられるが、これより上流においては、放流アユのみと考えられる。

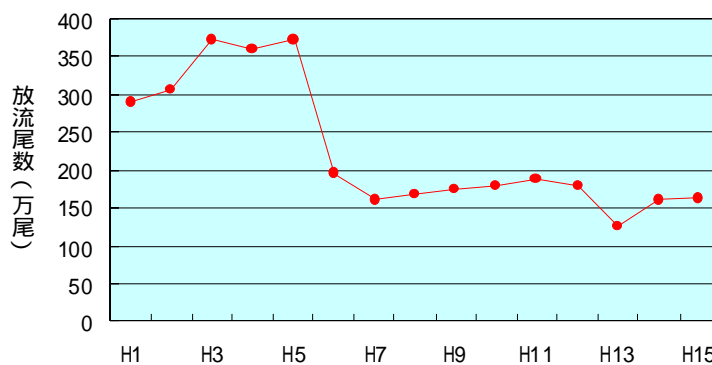


出典：漁業・養殖生産統計年表 農林水産省統計情報表

図7-2 那賀川における内水面漁業漁獲量

流量

那賀川漁業協同組合連合会による放流量は右図のとおりである。



出典：徳島県資料

図7-3 アユの放流量